

# 介護福祉士養成校で学ぶ離職者訓練生の介護観に関する研究

## Care Awareness for Care Workers Regarding Re-employment Trainees Studying at Vocational Colleges

青柳育子\*

Ikuko AOYAGI

**要旨：**国の離職者再就職訓練制度を活用して2年課程の介護福祉士養成校に入学した訓練生に、10週間450時間の介護現場実習を終えた後に介護職についての考えをインタビューした。結果、訓練生は介護職について「やりがいのある仕事」、「自分が成長する仕事」、「知識・技術を持つ専門職」等、介護職を評価していた。そして、全員が介護職として就職する予定であり、続けたいと考えていた。介護職の人材不足については、「現実を評価」し、「給与をあげる」や「介護職の公務員化」など、介護職を希望する若者に「希望を持ってもらえる」人材確保対策や、他産業から参入しやすい訓練制度の継続が必要であると考えていた。

**キーワード：**介護職，他産業参入，離職者訓練，介護イメージ，介護意識

### 1. はじめに

わが国の高齢化はまだまだ進展すると国は様々な統計を示し発表している。<sup>1)</sup> 高齢社会の課題の1つとして介護問題がある。平均寿命が年々上昇していることからみても要介護者が増加し、介護度が上昇することは当然の成り行きである。介護の重度化は、家族数が減少し独居高齢者が増加しているわが国の現状では、在宅で介護することをより困難にさせている。そして、老々介護と言われる高齢の配偶者が介護している家庭や、別居していて普段看ることのできない家族等の多くは介護に疲弊し介護施設に介護を依頼したいと考えている。<sup>2)</sup>

しかし、常時介護を要する人が入所する特別養護老人ホームの待機者は現在約52万人と言われる、希望して入所するまでに数年待ちと言われる現状である。<sup>3)</sup> そして、要介護者の増加とともに介護事業所で働く介護人材の需要が増加しているが、施設の介護職員及び在宅介護を担うホームヘルパー等の人材は慢性的に不足している。<sup>4)</sup>

国は介護人材確保のために経済連携協定(EPA)によるフィリピンやインドネシアからの介

---

\* あおやぎ いくこ 文教大学 生活科学研究所 客員研究員

護士候補者受け入れやハローワークを介した離職者訓練制度<sup>5)</sup>等の取り組みも行なっているが慢性的な介護人材不足の解消に至っていない。<sup>6)</sup>

1987（昭和62）年に「社会福祉士及び介護福祉士法」が制定し、国家資格の社会福祉士及び介護福祉士の養成と国家試験が開始された。1988（昭和63）年より2年課程の25校で開始された介護福祉士養成校は年々増加し、4年生大学で介護福祉士を養成し始めるところもあった。しかし、一時400校を越した養成校は入学希望者の激減により2014（平成26）年4月現在350校となり、そして、現在ほとんどの養成校は定員割れとなっている。なぜこのように介護職が敬遠されるようになったのだろうか。進学にあたり、親が介護職になることを反対するという報告もある。<sup>7)</sup>

介護職のイメージとして危険・汚い・厳しいといわれる“3K”があるが、イメージに影響されて若者が介護職になることをためらったり、他産業からの転職に躊躇するのだろうか。

今回、他産業で働いていた離職者訓練生（以下、訓練生）に、介護福祉士養成校<sup>8)</sup>で介護福祉を学び介護現場実習450時間を経験した後に、「介護職」をどのように思ったかをインタビューした。そして、介護人材確保と介護職の今後についての意見も聞き、介護職に関する課題を明らかにしたいと考えた。

## 2. 研究

### 1) 目的

他産業で働いた経験の後、離職者再就職訓練制度を活用して2年課程の介護福祉士養成校に入学し、2年次の介護実習計450時間を終えた訓練生に、「介護職」をどのように思ったか、また、介護人材確保と介護職の今後についての意見も聞き、介護職に関する課題を明らかにする。

### 2) 研究方法

本研究は、他産業経験者の「介護観」について考察することを目的に質的調査を選定した。具体的な手順として、インタビューガイドを作成し、そのガイドに基づき半構造化グループインタビューを行なった。インタビューの内容は、対象者の許可を得たうえでICレコーダーに録音し、観察した内容はメモに残しデータ作成の参考にした。

#### (1) 調査対象

A福祉専門学校に、ハローワークを通して訓練生として入学し、調査に協力した2年生5名。

#### (2) 調査日時

インタビューは、介護福祉士養成に関する介護実習計450時間を終了後の2015（平成27）年10月14日（水）にA専門学校の教室で16時20分からおよそ90分間行なった。

#### (3) 質問項目

質問は、以下の5問である。

- ①介護福祉士養成校で介護福祉を学び「介護職」をどう思ったか
- ②介護を实际体験した現場実習後に「介護職」をどう思ったか
- ③卒業後の就職希望

- ④介護職は続けられると思うか
- ⑤介護職の人材確保と今後について

#### (4) 分析方法

調査対象者から得たデータを逐語録として整理した。その逐語録をもとに質問ごとに要約し、カテゴリーを生成し解釈を加えた。カテゴリーを生成した段階で調査対象者に内容が納得できるものかを確認し参考意見を聴取した。また、データの解釈について現在訓練生を受け入れている他の介護福祉士養成校に勤務する教員と話し合った。文中のカテゴリーは「 」、コードは『 』、その他訓練生の言葉は“ ”と表記する。

#### (5) 倫理的配慮

調査対象者に調査の目的と方法を説明し、対象者が特定されないように配慮すること、また、カテゴリー生成時には内容確認してもらうことを説明して同意を得てインタビューを行った。

### 3. 結果

#### 1) 調査対象者の概要

調査対象者5名は、表1のように、30代2名、40代2名、50代1名で、女性4名、男性1名である。全員が職業経験を持ち、技術者や一般事務職、サービス業と職種は多様であり、勤務年数は5年～26年である。学歴は、男性1名が大卒で、女性4名は高校卒である。受講動機は、先行研究<sup>9)</sup>を参考に設定した7つ（1.介護職はこれから社会で需要が高い、2.介護の専門的知識・技術を勉強したい、3.介護に興味があった、4.訓練中の生活が保障され介護も勉強できるから、5.資格を生かして就職して安定したかった、6.ハローワークにすすめられた、7.その他）から選んでもらった。結果、「介護に興味があった」に4名、「資格を生かして就職して安定したかった」3名、「介護職はこれから受容が高い」2名、「ハローワークにすすめられた」1名であった。

表1 訓練生の概要

	年代	性別	学歴	職歴	職年数	職業訓練受講動機
1	50代	男性	大学	IT技術者	26年	1. 介護職はこれから社会で需要が高い 3. 介護に興味があった
2	40代	女性	高校	一般事務職	20年	1. 介護職はこれから社会で需要が高い 3. 介護に興味があった
3	30代	女性	高校	サービス業	5年	1. 介護職はこれから社会で需要が高い 3. 介護に興味があった、 5. 資格を生かして就職して安定したかった
4	40代	女性	高校	専門職 (14年) 一般事務 (1年) サービス業 (9年)	24年	5. 資格を生かして就職して安定したかった 6. ハローワークにすすめられた
5	30代	女性	高校	一般事務職	15年	3. 介護に興味があった 5. 資格を生かして就職して安定したかった

## 2) 「介護職」に対する意識

2年次の実習が始まる夏休みまで1年半介護福祉を学び実習を経験して「介護職」をどう思うかでは、表2のように、13のコードから3カテゴリが生成された。カテゴリでは、「やりがいがある仕事」、「知識・技術を持つ専門職」等、仕事を評価している。しかし、『定着率が悪い』『低いイメージ』等、社会の評価が低いことを認識している。

表2 「介護職」に対する意識

解 釈	カテゴリー	コード
やりがいのある専門職	やりがいがある仕事	やったことみえることが魅力
		やりがいがある仕事
		プライドの持てる仕事
		結果が見える仕事
		実力が問われる仕事
		感謝される仕事
		素晴らしい仕事
		成長させてもらう仕事
		利用者から教わることが多い仕事
	知識・技術を持つ専門職	意志疎通できない人とも何か伝わる
		知識・技術を身につけた専門職
	低いイメージ	低い見方は知らない人が言うこと
		なぜ定着率が悪いかわからない

## 3) 実習後の「介護職」に対する意識

10週間450時間という介護現場での長い実習体験後の「介護職」に対しては、表3のように、10のコードから3カテゴリが生成された。

表3 介護実習後の「介護職」について

解 釈	カテゴリー	コード
介護職の理解	大変な仕事	汚いというイメージの人ばかりと思っていた
		大変だと聞いていた
		大変かなと思っていた
		3Kを引きずっている
	やりがいのある仕事	やりがいのある仕事
		理想をもって働いている人がいる
		責任を持って働いている若い人が多く、大きくイメージが変わった
	仕事の大変さは同じ	夜勤があるかないかの違い
		大変な仕事はいくらでもある
		看護師の大変さと比べものにならない

他産業経験が5～26年という社会人にとって、介護職は、「大変な仕事」、「3K」と聞いていたが、『夜勤があるかないかの違い』にしか見えない。そして、同じ職場で勤務している『看護

師の大変さと比べものにならない』といい、どの職種であっても「仕事の大変さは同じ」であると思っている。また、現場には『責任を持って働く若い人が多く』、『理想を持って働いている人』がおり、『大きくイメージが変わった』。しかし、そういった人と『3K』という現実には不満を抱えている人もいて、“その差がすごくあった”。

#### 4) 卒業後の就職希望

卒業後の就職について訓練生は、表4のように全員が介護現場での就職を希望している。しかし、子どもが小さい等それぞれの事情により、夜勤の無いデイサービスを希望する人、夜勤をこなして収入のよい大きなところを希望する人などである。

表4 卒業後の就職希望

1	50代	男性	特養か老人保健施設で大きなところを希望。次は何をすればいいかと5年の中で考える
2	40代	女性	実習を行なって体力的にきつかった。それをもとに、グループホームか小規模多機能施設を希望
3	30代	女性	生活するために一番お金のいい大きな施設を希望。夜勤もこなして安定したい
4	40代	女性	子供が中学生なのでデイサービスとかデイケアとか夜勤がないところ。自分の条件が許せば、高齢者施設に勤め、いろんなことをしたい。
5	30代	女性	在宅に行きたい。しかし生活があるので小さいところはお給料が少ないので悩んでいる

#### 5) 介護職の継続

介護職に就いた場合、介護職は続けられると思うかでは、全員が「介護職」を続けたいと答えた。他産業を経験した30～50代の人が、長期にわたる介護実習で現状を見ても「介護職」の継続を希望した。

表5 介護職の継続

1	50代	男性	高齢者の幸せを追求する、続けられないとは全く思わない
2	40代	女性	体力的に続けられるかは……。できる限り続けたいと思っています
3	30代	女性	私ももちろん続けるつもりです
4	40代	女性	私ももちろん続けます
5	30代	女性	続けます

#### 6) 介護職の人材確保と今後について

介護職の人材確保と今後については、表6のように18のコードから6カテゴリーが生成された。訓練生は、介護実習で現場での人手不足の現状を体験し、「現実を評価してアピールする」、そして「給与をあげる」とか『公務員化』など適切な「人材確保対策」を『悠長に構えている場合』ではなく早急に行なわなければならないと訴えた。

そして、『これからは若い人に頼らざるを得ない』からこそ、『彼らに希望を持ってもらえる』ように「若者の育成」や「指導者の育成」にも取り組むことが必要と考えている。そうでなければ、『プロ意識が低くなり』、『レベルが下がり』「介護職の質の低下」につながるだろうと考えていた。

表6 介護職の人材確保と今後について

解 釈	カテゴリー	コード
介護人材確保対策	給与をあげる	いちばん簡単なのはお金
		お金は大事
	人材確保対策	国が何かをしないかぎり変わらない
		国は悠長に構えている場合ではない
		政策はピンとがずれている
		現場の本当の事を知っている人たちが立てればこんなことにならない
		介護保険で国のお金でやっているから地方公務員にすればいい
	地方公務員という名前があれば増えると思う	
	現実を評価しアピール	見えるように評価するとモチベーションが上がる
		お金に変えられない感動的なことってあるので、それを皆にアピールしていく
		メディアを使って介護業界もどんどんアピールしていくべき
	人材育成	若者の育成
どうやったら彼らに希望を持ってもらえるか		
若い子を育てる		
指導者の育成		施設に教育指導者が必要
介護職の質の低下		介護福祉士の資格もどうなるのかなと不安
		だれでもできる仕事になる
	プロ意識が低くなり、レベルも下がっていく	

#### 4. 考 察

##### 1) 「介護職」について

社会では介護現場で働く「介護職」について、‘危険・汚い・厳しい’等“3K”と評価している現状があり、介護人材の確保をより困難としている。そして、高齢社会と言われてから何年もの間、介護職の人材確保がわが国の重要課題の一つとされている。内閣府の2010（平成22）年の世論調査においても半数以上の人々が、介護職を「夜勤などがありきつい仕事」「給与水準が低い仕事」と答えている。

国では、2025（平成37）年問題として、団塊の世代全体が介護の必要となる75歳以上の後期高齢者になる時点の介護人材の需要を237～249万人と推計しており、現在行なわれている人材確保対策を行なううえでも約37万人が足りないと思込んでいる。

対策の一つに、今回の研究対象とした「介護福祉士の資格取得を目的とした民間委託による職業訓練（離職者訓練）」がある。他産業で活躍してきた訓練生たちは、介護福祉士養成校で介護福祉を学び、10週間450時間の現場での介護実習を体験して思った「介護職」を、「やりがいがある仕事」、「プライドの持てる仕事」、自分が『成長する仕事』、『素晴らしい仕事』で、「知識・技術を持つ専門職」で『実力が問われる仕事』であるとポジティブに捉えていた。そして、調査した訓練生全員が介護職に就き、続けたいと言った。しかしながら、社会は介護職を『汚いイメージ』や『3K』、「大変な仕事」、「低いイメージ」等で見ていると思っている。

訓練生たちは、介護の勉強をしなければポジティブな意識にならなかつたのだろうか。厳しい他

産業で働いていたという訓練生は、“これくらいきつい仕事はいくらでもある”と言い、その違いは『夜勤があるかないかの違い』と言った。実際、医療現場やサービス業界等24時間交代勤務や夜間勤務だけの業種や、危険な業種・厳しい業種も多数あるが、人を支援する仕事の介護職がなぜ“3K”と大きく言われるのだろうか。

少し前、24時間交代勤務で病む人の看護をする看護職が“白衣の天使”と言われながら、その職場は“3K”と言われた時期があった。現在も業務内容は変わらないのだが、いつからか看護職があまり“3K”と言われなくなった。看護職と介護職との違いは、その専門性にあり社会がそれを認めているからだと考える。看護師は看護師になるための学習と訓練を受け、国家試験に合格して看護師となる。そして、看護職は看護師でなくてはできない業務がある。介護職は国家資格を持つ「介護福祉士」と130時間の研修受講のみで介護業務に携わることができる資格もある。<sup>10)</sup> また、介護福祉士に関しても、養成校卒業者と3年の介護経験で国家試験を受験して介護福祉士になったものもいる。現在、介護現場にはこのような多様な資格者だけではなく無資格者も働いている。介護の質を担保する資格が明確でないことが原因なのではないかと考える。介護の人材不足のために、介護の勉強をしてこなかった人も雇わざるを得ない現状が介護サービスの質の低下となり、社会の評価が低下し人材不足となる悪循環になっているように思える。介護職になるための学習と訓練と資格を明確にし、介護サービスの質が標準化し、介護サービスに利用者満足度が高まってくると社会的評価も上がっていくだろう。質のよいサービスを提供する介護職の処遇改善に反対する国民はいないだろう。

## 2) 介護人材確保における「離職者訓練」について

現実問題として、他産業から介護職に参入しようと就職しても、要介護であり高齢者特有の心身の状況にある人たちに対する対人援助には専門的な知識と技術が必要とされ、すぐには対応できない。研修を受けずにそのまま業務にあたると事故が起こることが想定できる。また、介護サービスの質の低下は、サービスを受けている高齢者の生活の質の低下に直結する問題である。

訓練生たちは、介護の現状を理解したうえで介護職に就きたい、続けたいと話した。これらから考えても、2年間の介護福祉士養成離職者訓練は、時間がかかり費用がかかる課題もあるだろうが長期的に見ると有効な人材養成と考えられる。2010(平成22)年に日本介護福祉士養成施設協会の調査<sup>11)</sup>の、訓練生対象のアンケートでは、回答数4,439名中「雇用対策として必要な制度である」641名、「介護分野の人材確保につながる」407名、「資格がとれ再就職につながる」309名、「経済的支援があり勉強に専念できる」387名等、今後も継続すべきと2,721名(61.3%)が答えている。見直しが必要というものには「訓練生の選考について」536名、「カリキュラム」185名、「経済的負担軽減が必要」181名等1,213名(23.7%)があるが、制度をやめた方が良くと答えるものはいなかった。今後も、制度を存続して介護福祉を学び意識の高くなった人材を介護事業所に参入させることが、社会の評価を高めることになるかと考える。また、同時期に始まった働きながら介護の資格を得ることのできる「介護雇用プログラム」<sup>12)</sup>は27年度で終了した。介護職を考える人材に様々な機会を用意して、人材確保を図る必要があるだろう。

## 5. 課 題

今後の研究課題として、調査対象者のデータが十分と言えないことから、さらにデータ量を増やし分析を進めることが必要と考える。本研究は、訓練生を受け入れる A 介護福祉士養成校の訓練生の 2 年生 6 名中協力のあった 5 名を対象に調査を行なった。A 校のある県では 8 校が訓練生を受け入れている。訓練生の意識は、教育環境や実習施設環境等で多少差があると考えますが、筆者の考えでは、訓練生の意識は大きく変わらないだろうと推測する。それを証明するには調査対象者を増やしデータを集めることが必要である。

## 謝 辞

本研究にご協力いただいた A 専門学校の 5 名の訓練生と研究協力していただいた佐野雪江先生に心より感謝いたします。

## 註

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 24 年 1 月推計）」によると、65 歳以上の高齢者人口は 3384 万人（平成 27 年 9 月 15 日現在推計）で、総人口に占める割合は 26.7%。前年（3295 万人、25.9%）と比べると、89 万人、0.8 ポイント増と大きく増加しており、人口、割合共に過去最高となる。
- 2) 日本労働組合総連合会「要介護者を介護する人の意識と実態に関する調査」2014 年 2～4 月実施によると、在宅介護を行なっている人の中で入所申請中・予定と今後大変になったら検討するが 59.0%。
- 3) 厚生労働省老健局高齢者支援課「特別養護老人ホームの入所申込者の状況」（平成 26 年 3 月 25 日）によると、特別養護老人ホームの入所申込者は、約 52.4 万人であり、そのうち入所の必要性が高い要介護 4 及び 5 で在宅の入所申込者は、約 8.7 万人である。
- 4) 介護労働安定センター「介護労働実態調査」によると、平成 24 年度の施設での介護職員の不足感は 17.3%、訪問介護分野では 38.1% となっており、その理由として採用が困難であると 70.2% が回答している。
- 5) 厚生労働省発表（平成 21 年 3 月 11 日）によると、介護分野において人材不足の状況が続いていることから、平成 21 年 4 月から、求職者を対象に、介護福祉士の資格取得を目指した 2 年間の職業訓練を順次開講し、今後の介護分野の担い手となる人材を育成していくことにした。教材費等の実費以外、訓練受講料は無料である。なお、平成 21 年度は 2815 人、平成 22 年度は 5583 人、平成 23 年度は 5619 人、平成 24 年度は 5388 人が受講し、関連就職の割合は 24 年度では 83.3% である。（厚生労働省職業能力開発局）
- 6) 厚生労働省「第 3 回福祉人材確保専門委員会（H27.1.27）資料 1」によると、2013（平成 25）年現在の介護職員は 171 万人であるが、団塊世代が 75 歳以上になる 2025（平成 37）年には、「総合的な確保対策による押し上げ」を図っても供給が 215 万人であり、必要数より約 37 万人の需要ギャップが見込まれている。
- 7) 青柳育子「人間の発達」『介護福祉を学ぶ学生の介護職に関する意識—仙台白百合女子大学の学生調査に基づいて—』仙台白百合女子大学人間発達研究センター紀要第 10 号 pp79～87
- 8) 平成 19 年度介護福祉士養成カリキュラム

領域	教育内容と（時間数）
人間と社会	人間の尊厳と自立（30 以上）、人間関係とコミュニケーション（30 以上）、社会の理解（60）等、 計 240 時間
介護	介護の基本（180）、コミュニケーション技術（60）、生活支援技術（300）、介護過程（150）、介護総合演習（120）、介護実習（450）、 計 1260 時間
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解（60）、認知症の理解（60）、障害の理解（60）、こころとからだのしくみ（120）、 計 300 時間
	合計 1800 時間

- 9) 社団法人日本介護福祉士養成協会「介護福祉士資格取得のための離職者訓練制度及び介護雇用プログラムに関する調査報告書」平成23年3月
- 10) 現在の介護職と言われているものには、国家資格を持つ介護福祉士の他、研修時間が130時間の「介護職員初任者研修」を受講のみの介護職もある。また、2013（平成24）年までは、1級及び2級ホームヘルパー養成研修があり、それらが混在して「介護職」として表現されている。
- 11) 9)と同じ
- 12) 働きながら資格をとる「介護雇用プログラム事業」は、仕事を探している人が、養成機関での受講時間も含め給与を得て、働きながら介護資格を取得するプログラムである。プログラムの参加者は、介護施設に、1年以内の雇用契約で雇われ、その間に、参加者は、養成機関に通って、ホームヘルパー2級または介護福祉士資格をとる。働いている時間だけでなく、養成機関に通っている時間も給与が出る緊急人材育成支援事業である。（厚生労働省職業能力開発局能力開発課）

## 文 献

- 社団法人日本介護福祉士養成施設協会「介護福祉士資格取得のための離職者訓練制度及び介護雇用プログラムに関する調査報告書～介護福祉士養成教育の新しい試み～」平成23年3月
- 労働政策研究・研修機構「労働政策研究報告書 No.168 2014」『介護人材需給構造の現状と課題～介護職の安定的な確保に向けて～』2014年5月30日
- 第3回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会資料1「介護人材確保の具体的な方策について」平成27年1月27日
- 千葉県産業人材課「平成26年度離職者等再就職訓練の受講生募集について（専修学校等委託訓練）」  
<http://www.pref.chiba.lg.jp>
- 厚生労働省ホームページ、<http://www.mhlw.go.jp/>
- 厚生労働省「介護人材の確保について」第一回福祉人材確保対策検討会資料2、平成26年6月4日
- 内閣府「介護保険制度に関する世論調査」平成22年9月調査、<http://survey.gov-online.go.jp/>
- 佐伯和子，和泉比佐子，澤田いずみ「高齢者の介護に対する認識—介護御エンパワーメント教室参加者の質的データ分析から」老年社会科学第22巻第3号，2000.10
- 宮上多加子，河内康文「離職者を対象とした介護福祉士養成事業における社会人学生の経験—離職者訓練生と介護雇用プログラム生の比較—」日本社会福祉学会中国・四国ブロック創刊号，2012.3